

平成 2 2 年 5 月 2 6 日現在

研究種目：若手研究 (B)  
研究期間：2007～2011  
課題番号：19720146  
研究課題名 (和文) 韻律中心の英語音声教育の有効性：聴解及び発話テスト (アクセント度判定) による検証  
研究課題名 (英文) Global foreign accent and the effectiveness of the prosody-accented approach  
研究代表者  
秋田 麻美子 (AKITA MAMIKO)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授  
研究者番号：30334585

研究分野：英語教育

科研費の分科・細目：言語学 外国語教育

キーワード：発音 英語教育 第二言語習得

## 1. 研究計画の概要

第一に、音素(音素識別訓練)よりも韻律レベル(音変化等)を中心とした音声教育が、日本人英語学習者の聴解および発音能力全般の向上に重要な影響を与えるかどうかを検証する。まずは市販の発音・リスニングテキストを使用し、大学在学中の日本人英語学習者から、複数年度にわたって、長期的かつ多角的に聴解および発話データを収集し、検証をおこなうことを目的とする。

第二に、上記で得られた実験結果をもとに、より効果的な発音・リスニングテキストを開発することを目的とする。試作した英語教材を用いて同様の被験者とデータ収集方法により、開発した教材の教育効果を検証することを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 既存教材を使用した検証実験

音素(音素識別訓練)よりも韻律レベル(音変化等)を中心とした音声教育が、日本人英語学習者の聴解および発音能力全般の向上に重要な

影響を与えるかどうかを検証してきた。大学在学中の日本人英語学習者から、複数年度にわたって、長期的かつ多角的に聴解および発話データを収集し、さらに、効果的な教育テキストを試作しその教育効果を検証した。

過去 5 年間(本課題の 1 年目を含む)にわたり以下の要領で聴解および発音データの収集・分析を行ない、その結果を報告してきた。

3 つの実験群( コントロールグループ  
音素識別訓練中心グループ 韻律中心グループ)

既存の同一リスニング教材を使用し、各実験グループに別々の音声教育を半期間実施する。

三回にわたり聴解と発音テストを実施し、各教育効果を測定する。

(テスト実施時期： 受講直前  
受講直後 受講から半年後)

発音テストは、3 種類のデータ(ダイアログ, 短文, 自由発話)を収集し採点・分析を実施。

聴解テストはディクテーションを課し、採点・分析。

その結果、音素(音素識別訓練)よりも韻律レベル(音変化等)を中心とした音声教育が、日本人英語学習者の聴解および発音能力全般の向上に重要な影響を与えることがわかった。

## (2) 発音・リスニングテキストの開発および教育効果の検証

平成21年度(実質研究期間半年)は90分授業3回分のテキストを試作した。平成22年4月以降はそれに基づいて半期分15回の授業テキストを作成するとともに、音声教材を作成する予定である。平成23年度には、発音および聴解データの収集と分析を行う予定である。

### 3. 現在までの達成度

やや遅れている

当初の研究計画では、研究年度2年目の平成20年に音声教材を試作し、実験授業を3年目に実施する予定であった。しかし、平成20年5月に妊娠し、6月に切迫流産のため、自宅療養が必要となり、教材開発のために行っていた試作テキストを用いての模擬授業を始め、データの収集を続けることができなくなり、健康上の理由から研究の中断をした。そのまま平成21年2月に出産・育児休業にはいった。平成21年10月に研究に復帰したが、研究協力者との予定がなかなか合わず(相手方で4回の公務海外出張が入ったため)教材開発に必要な打ち合わせを十分に行うことができず、執筆が遅れてしまうこととなった。

本年度は、研究協力者と綿密な打ち合わせを行い、テキストおよび音声教材を完成させる予定である。

### 4. 今後の研究の推進方策

本年度は90分授業15回分のテキストを作成する。その上で、小規模な実験授業を実施して改定作業を行い、平成23年度に実施する長期データ収集(1年間)に備える。

(実施計画)

4月～9月：英文執筆(研究協力者の大妻女子大学T.Wright氏に依頼済み)  
エクササイズ執筆(研究協力者の北海道教育大学大賀京子氏に依頼済み)  
音声指導部分執筆(研究代表者が担当)

9月：研究協力者2名とテキスト内容の検討

10月～11月：付属テープの録音と編集

12月・1月：実験授業の実施

2・3月：研究協力者2名とテキスト内容の検討およびテキストの改定作業

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

秋田(折井)麻美子 『英語母語話者による日本人の英語発音のアクセント度判定とその判断要因分析』

英語音声学 (11・12), 265-280,  
2008-03 (査読なし)